COLUMN

標準化よもやま話 9

# 思い出に残る国際会議

吉岡稔弘　（株）AI総研

2001年9月10～11日の2日間にわたり，自動認識分野のRFIDに関する国際会議ISO/IEC JTC 1/SC 31/WG 4総会他が，大阪で開催された．それまで日本での開催地は東京が多く，この時初めて関西で開催された．折からのRFIDのブームの到来もあり，海外からも30名を超える委員が参加して，内容の濃い審議が進められた．議論が白熱し，方針をめぐり米国の2人の委員の意見が鋭く対立した．互いに机をたたいて1時間近く激論を交わした．最後まで調整がつかず，結局国際投票で方針を決めることになった．初日の夜は，レセプションも行われ，2日目の審議も無事に終了した．大半の人が翌日の12日のフライトで帰国する予定であると聞き，開催国の委員の1人として関係者の協力を得て何とか責任を果たした思いで帰宅した．翌日9月12日（米国では9月11日）のTVニュースでNYのWTCがテロ攻撃されたこと，また米国に向かう航空機がすべてストップしていることを知った．いわゆるNine-Elevenテロの発生であった．心配してホテルに電話を入れると，米国人以外は予定通り帰国したが，米国組のうち5名がホテルに缶詰になり，動けないことが判った．米国人に電話を入れると，幸い家族関係者に被害者はいないとのことであったが，電話の声は悲しみで震えていた．9月15日にフライトが再開されることが決まったので，前夜の14日になんば心斎橋のレストランに誘った．普段は酒の好きな連中が，誰一人として一滴も酒を飲まなかったのを見て，米国人の受けた衝撃の強さを垣間見た思いがした．あれから5年の歳月が流れたが，毎年9月になるとあの時の出来事を思い出す．

2つ目の印象深い会議は，2005年6月9日にシンガポールで開催された，RFIDに関するISO/IEC JTC 1/SC 31/WG 4/SG 3のBRM（Ballot Resolution Meeting）である．GS 1（旧EAN/UCC）傘下のEPCglobalのClass1Generation2（C1Gen2タグと称する）仕様のRFIDタグのCD規格に対する各国の修正や要望などのコメントが提出され，これらを審議する会議であった．C1Gen2タグはGS 1が世界規模で導入を予定している初のパッシブ型の標準タグであり，米国のWal-MartやドイツMETROグループ等が主導して仕様をまとめ開発中のタグであった．早期の国際規格化と製品の開発導入が要望されていた．それだけに各国の関心も高く，通常は20～30名の参加者であるWG（Working Group）の中のSG（Sub Group）でありながら参加者は73名に達し，会議場は椅子を前後2列にして，超満員の状態であった．翌日開催された親委員会であるSC 31総会の出席者数を超えており，筆者の経験ではSC 31傘下のWG，SGの会議では新記録であり，今後も簡単には破られそうもない．各国から提出されたコメントは200件を超えており，これを1日のBRM会議で審議するのは到底無理ではないかと想定されていた．ところが，そこはプロのやり方で審議がどんどん進められた．通常は，コメントを提出した国別に，1件1件コメントの内容を再確認しProject Editorが対応策を説明して審議を進める方式を採用する．しかしこのときは審議を加速するために，類似のコメントを新たに30項目程度に再分類して審議する方式が採られた．新しい項目には元の複数国のコメント番号が含まれ，提案国との対応が1対1でないため，審議されている内容が自国のものか，他の国からのものか分かりにくく，意見を述べる時間が少ない状態で審議がどんどん進められた．ISOの国際会議を取り仕切るためには，日本の委員もこうした進め方も研究すべきだと，深く印象に残った会議である．

（平成18年10月4日受付）

吉岡稔弘｜toshihiro.yoshioka@ai-soken.com
情報技術，自動認識分野の国際ConvenerでISO/IEC JTC 1/SC 31/WG 2（Data Syntax）およびWG 4/ SG 5（RFID Implementation Guideline）を担当．